

長引く避難 弱る高齢者

県内の小規模施設

心身の不調訴え増加 乏しい燃料 電話も不通

避難生活の長期化に伴い、小規模避難所では高齢者ら災害弱者を中心に心身の不調を訴える人が増えている。沿岸の避難所には暖房や移動に必要な燃料がほとんど届かないところもある。携帯電話も不通のまま、被災者は「万が一の事態が起きたらどうしよう」と不安は大きい。

陸前高田市田町の六ヶ浦地区は津波で一部家屋が全壊し、住民125人のうち集合施設には約25人が避難している。精神的に不安定になる人が増加。睡眠補助薬をもらって、やっと眠りに就く人も少なくない。

物資配給はあるが、食料はほぼ自弁だ。燃料はこれまでほとんど届いていない。各自持ち寄りた灯油と練炭で暖を取り、破損した車の燃料を抜き取って何とかしのいでいる。

自衛隊や日赤が無事確認されるが、燃料がなく電話も使えない中で急病や予期せぬ事故にどう対処するか、住民は不安を募らす。

小松スミ子さん(77)は「寒さで血圧が気になるし、インフルエンザが広がればどうしよう」と漏らす。抵抗力が落ちた被災者は暖房や医療環境などが比較的恵まれている大規模避難所や、市外の病院に移送してはという声も聞かれる。

ただ、同市米崎町の仮設診療所で事務に追われる千葉徳次・市健康推進課長補佐は「避難



燃料もない、電話も通じない。心身の不調を訴える高齢者が増え始め、住民の不安が募る一陸前高田市田町・六ヶ浦会館

所多くは定員いっぱい、避難者を移すかの優先で、移送に必要な手順決定にはヘルパーも足りない。どのらの支援も必要だが、

みんな被災者、人員も不足している。と苦しい実情を説明する。六ヶ浦会館で暮らす山田のぶさん(82)もヘルパーだが、被災した大船渡市の大船渡中では21日、卒業式を終えた生徒たち104人が避難所になった。羽生まこと(81)も「YELL(エール)」を合唱した。

生活再建 募る不安

東日本大震災で被災した大船渡市の大船渡中では21日、卒業式を終えた生徒たち104人が避難所になった。羽生まこと(81)も「YELL(エール)」を合唱した。

避難所には200人を合宿した。

大船渡中では21日、卒業式を終えた生徒たち104人が避難所になった。羽生まこと(81)も「YELL(エール)」を合唱した。

帰されても生きていけない



今後の生活に不安を募らせる竹山キエさん(中央)、山崎イネさん(右)ら被災者一宮古市・津軽石小

今後の生活を誰に頼る避難所生活を送る竹山キエさん(中央)と山崎イネさん(右)ら被災者一宮古市・津軽石小

「全部流された方が安心だった。つづや名浜とわね宛から、断水と食料不足に加えて、福島第一原発事故から約190人が21日の不安もあり、施設日、千葉県鴨川市のか丸ごとの避難に踏み切った。

孤立集落の医療課題

巡回限られ行き届かず

東日本大震災の被災地のうち、孤立状態に近い集落には医療支援が十分に行き届いていない。

「切り傷一つでも怖いですよ」。釜石市箱崎町の野川前地区で21日、救援に訪れた陸上自衛隊から生活物資を受け取った板金業を営む矢野秀俊さん(41)は

まだ不安が残る。同地を免れたが、ガソリンは多くの家屋が倒壊、不足で車の移動は困難だ。物資が比較的豊富で医療を受けやすい避難所と異なり、物資も医療も救援を待つしかない。

矢野さんは「昨日初めて赤十字の方が車で来てくれ、助かった。次はいつ来てくれるのだろうか」と不安げに話していた。

被災スーパーで盗難

東日本大震災で被災した山田町大沢のスーパー「ジョイス」が盗難被害を受けた。現金百数十万円が盗まれた。

翌日の12日、店員が店の建物外にある金庫を確認。15日に店員が再度確認したところ、金庫がなくなっていることに気が付いた。同店は津波で、店内の商品が流出するなどの被害を受けていた。

避難所に希望の歌

卒業式後に



避難所の体育館で合唱する大船渡中の卒業生—21日午前、大船渡市の大船渡中

「さよなら」を唄って耳を傾けた。指揮をした赤崎陽康さん(67)は「被災した子どもを元気づけたい。力を強いリフレイ」と思っていた。最後の道へ進んで目を細めていた。

「さよなら」を唄って耳を傾けた。指揮をした赤崎陽康さん(67)は「被災した子どもを元気づけたい。力を強いリフレイ」と思っていた。最後の道へ進んで目を細めていた。

介護施設丸ごと避難

福島から窮余の策 2人死亡

東日本大震災に被災した福島県いわき市の「介護老人保健施設」小名浜とわね宛から、断水と食料不足に加えて、福島第一原発事故から約190人が21日の不安もあり、施設日、千葉県鴨川市のか丸ごとの避難に踏み切った。

約6時間のバス移動中に80代と90代の女性2人が心肺停止状態となり、到着後に亡くなった。

「2人が亡くなったのは残念だが、重篤な認知症で置いてくるわけにはいかなかった。施設は瀬戸際で、命がらたどり着いた」と話した。

集団避難は、鴨川市の亀田総合病院が窮状を知って医療面の支援を申し出て、かんべの宿との交渉を仲介した。厚生労働省は「第一原発周辺の介護施設にはいかなかった。施設は瀬戸際で、命がらたどり着いた」と話した。

水俣病訴訟和解へ

原告団が受け入れ決議

水俣病未認定患者が国などに損害賠償を求めた集団訴訟で、最大の訴訟団体「水俣病不知火患者会」(原告2993人)は21日、熊本県青井町で原告団総会を開き、和解に応じる方針を決議した。

このほか①一時金の支給対象者は原告の90%を超す2773人②石川生原告団は「多額の賠償を受けたい」と陳謝した上で、施設の耐震性に問題はなかったと考えている」と述べた。

同社によると、液化石油ガス(LPG)のタンク5基のうち13基が損傷。被害がなかったタンクの在庫分も、出荷再開のめどは立っていない。

製造所火災が10日ぶり鎮火 千葉県市原市消防局は21日、東日本大震災の影響で発生したコスモ石油千葉製油所(同市)の火災が、同日午前10時10分に鎮火したと発表した。発生から10日ぶり。

同製油所の若名利憲所長は記者会見し「多大な迷惑をお掛けしたことを陳謝した上で、施設の耐震性に問題はなかったと考えている」と述べた。

同社によると、液化石油ガス(LPG)のタンク5基のうち13基が損傷。被害がなかったタンクの在庫分も、出荷再開のめどは立っていない。

入所者の避難を進めているが、受け入れ先は分散する場合が多く、100人規模を1カ所に受け入れた例は聞いたことがない」としている。

柏山 徹氏(かしばらま)とある旧水沢市議(20日後6時47分)の老衰のため奥州市内の病院で死去。88歳。奥州市水沢区出身。自宅は奥州市水沢区姉妹町字八幡16。火葬は23日午前10時半から同市水沢区佐倉河のさくら宮苑。葬儀は24日午前11時から同市水沢区姉妹町の龍徳寺で。喪主は妻恒子(つねこ)さん。83年から市議を4期16年務めた。

同署管内の今年の交通事故死者は2人(前年同期なし)、県内は9人(同9人)。

21日午前11時半ごろ、陸前高田市横田町の市道で、同市横田町字町の子113の(30)の農業者藤原邦彰さん(30)の軽乗用車が路上に立つていった母親の介護士恵子さん(60)をはねた。恵子さんは大船渡市内の病院に運ばれたが同日午後1時19分、心臓破裂で死亡した。邦彰さんは顔に軽傷を負った。

同署管内の今年の交通事故死者は2人(前年同期なし)、県内は9人(同9人)。

21日午前11時半ごろ、陸前高田市横田町の市道で、同市横田町字町の子113の(30)の農業者藤原邦彰さん(30)の軽乗用車が路上に立つていった母親の介護士恵子さん(60)をはねた。恵子さんは大船渡市内の病院に運ばれたが同日午後1時